TNC 通信
2021
6月号

第２６回定期総会を27日に行います！！

5月21日に理事会を行い、第26回定期総会の大綱が下記のような内容で了承されました。(右写真は昨年の総会)
<日時>2021年6月27日(日)14時開会
<会場>富谷市富谷　町上会館
<内容>会長あいさつ、2020年度活動及び決算報告、監査報告、2021年度活動計画及び予算の審議となります。
<懇親会>本年も行いません。
※コロナの状況を考慮し、来賓及び留学生の招待は本年も行いません。
※当日はアルコール消毒液及びマスクを用意しておりますが、マスクはご持参下さい。

会費の納入について

○昨年同様、コロナ下での活動の制限もあり、年会費は1000円となります。当日、会場で受付し領収書を発行します。
○協会機関紙「日本と中国」(月間発行)を継続される方、新規に希望される方は別途、6000円を同じく受け付けます。
※なお領収書の準備がありますので、事前に事務局・横山まで出欠の連絡をいただければと思います。欠席の方は後日、総会資料と振込用紙を郵送いたします。

丑年アラカルト

「牛を椎して墓を祭るは鶏豚の親存に逮ぶに如かず」親が死してから牛を供えるよりも生きているうちに鶏でも豚でも食べさせる方がよい、の意。立派な葬儀をするより、質素でも親が生きているうちに孝養を尽くすべき。『韓詩外伝』

☆県協会・江幡名誉会長が『激流の中で』を出版!!　☆

敗戦後、中国で育った少年時代から帰国後の学生時代や日中友好協会での１５年に渡る吉林省での植林活動でのエピソード等が綴られている。購読希望の方は事務局でお貸しいたします。

『中国少数民族民話』「苗族　楼花という名の大泥棒」

ずっと昔、「楼花」(ロウホア)という息子を連れた若後家がいました。この若後家には、他人の物をかすめ取るという悪癖がありました。そして息子は、小さい時から乳母日傘で甘やかされて育ちました。

楼花が八歳になったある日の事です。坂道で遊んでいた楼花は、他人の畑にトウガラシが大きくなっているのを見つけ、何気なく少しだけ採って帰りました。すると楼花のお母さんは、息子がトウガラシを持ち帰ったのを見ても、どこから採ってきたものなのかを問いたださないばかりか、逆にほめたたえて言いました。
「なんて嬉しいんだ！　私の楼花が食べ物を採ってくるなんて―こんなにたくさん採ってきてくれた！」

お母さんからほめられて、楼花は得意になり、別の日には、他人の畑にナスビが大きく育っているのを見つけ、袋にいっぱい摘み取って帰りました。それを見て、お母さんはいつもと同じように楼花を称賛しました。「実際、うちの楼花はたいしたもんだよ。いろいろな物を採ってきてくれるからね！　おかげで私はおおだすかりだよ！」

こうして楼花は大きくなり、いつの間にか肝っ玉も太くなっていきました。トウガラシを採ることに始まって、今では、水牛など大きな家畜まで他人の家から盗るようになってしまいました。盗んだ水牛は売り、そのお金を家に持ち帰る知恵もつき、近隣では「楼花強盗」(ロウホアチャントウ)という二つ名で呼ばれる有名な大泥棒です。

けれども、そんな彼にも、ついに最後の日がやってきます。些細な品を盗った罪で、警察に逮捕されてしまったのです。

(続く)

※苗(ミャオ)属は中国の南方の貴州省に多く、刺繍が有名。

「文字渦」(円城寺塔著　新潮文庫、781円)

不可思議な本だ。１２編からなるが、主役は文字だ。最初の“文字渦(か)”の冒頭が「旧説では、阿語の……」である。阿語とは？　スマホと漢和辞典が必要なのだ。もっとも意味不明でも関係なく読み進むと、闘蟀(コオロギの闘い)ではなく“闘字”や兵馬俑が絡む“文字渦”、遣唐使が絡む“新字”など、全編にたどり着くか疑問に感じながらまさに文字の渦(うず)に巻き込まれ、楽しくなる。

川端康成文学賞と日本ＳＦ大賞のダブル受賞というのも興味深い、文字にまつわる奇書である。(M)